

年間業績発表 棚卸資料

部門 入所 / 通所 / 訪問
PT / OT / ST
コアカリ()

当施設ハビリテーション部では、質の評価をドナベディアンモデルを使用して毎年棚卸を行っています。棚卸の目的は、在庫や品質を把握することで、課題に対して今後活かすために実施します。ドナベディアンモデルは、医療の質を評価する際によく用いられます。これは、「構造 structure」、「過程 process」、「結果 outcome」の3つの側面で評価します。評価結果を下記にまとめてみてください。

《年間目標》

- ①リハマネ 45名 施設内営業すすめる(入所・訪問より6名)
- ②生活行為向上リハ 2名
- ③口腔機能向上加算 30名
- ④生活行為向上リハ、口腔ケアチラシ作成
- ⑤認知症短期集中リハ加算算定の検討
- ⑥電子カルテ以降検討

●構造 structure

- ⇒上半期PT2名、OT3名、ST1名(新卒PT1名)
(うちロゼイ月火水OT1名、木金PT1名派遣 あろんていあ住吉月1回)
⇒下半期PT2名、OT2名、ST1名(OT1名入所へ)
(ロゼイ・あろんていあ住吉体制変わらず)
※随時訪問、入所からの支援あり

生活行為向上リハビリテーション研修会受講者(PT1名、OT2名)

●過程 process

- ①リハマネ:新規利用者は概ね全員リハマネ算定を促している
- ②生活行為向上リハ:体験時・新規利用時に適応を判断している
- ③口腔機能向上加算:新規利用者は加算の促しをしている
既存の利用者は口腔訓練を行っている方から必要性に応じてリハマネ会議にて促している
- ④チラシ作成は担当者と本部と協業して行っている
- ⑤認知症短期集中リハ:対象者の洗い出しを実施 現在認知症と診断している利用者10名あり
- ⑥2024年1月から通所スタッフと電カル運用について話し合い実施

●結果 outcome

- ①リハマネ取得者55名(目標45名)と達成 (入所より9名利用につながった)
- ②生活行為向上リハ 2023年4月～、2024年1月～ 2名実施と目標達成
- ③延べ25名に算定と未達成
- ④今年度中に作成できず未達成
- ⑤1名算定可能者あるも、実施に至らず次年度に持ち越し
- ⑥まずはデイスタッフがバイタル、服薬等打ち込めるように共有した

《次年度持ち越し課題》

- ①施設内営業(リハ合宿者の受け入れ態勢を検討)
- ②口腔機能向上リハの促し(口腔体操のやり方を検討)
- ③認単の運用
- ④電子カルテ化をすすめる